

広報

もりの 中部の森林

写真：「新緑の季節」(カラマツ新緑写真コンテスト(H25)ご応募作品より)

私の森語り「木のお酒とにおいの森づくり」
(株)島田木材 代表取締役 島田 優平

特集

・中部森林管理局の事業概要～令和5年度の取組のポイント～
各地からの便り

- ・無人航空機の操作説明会を実施
- ・カラマツエリートツリー特定母樹の円滑な普及に向けて ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2023/No.230

中部森林管理局の事業概要
（令和5年度の取組のポイント）

【企画調整課】

四月二十五日、令和5年度の中部森林管理局の取組について当局のホームページに掲載しました。ここでは、新たな取組や重要な取組について紹介します。

I 令和5年度の新しい取組

◇「新しい林業」の実現に向けて

・伐採から再造林、保育に至る全体の収支のプラス転換に向け、特に造林初期段階の保育におけるコスト削減と労働強度の軽減を図るため、伐採・造林一貫作業システムの推進や大苗、緩効性肥料入りコンテナ苗を利用した下刈回数削減等を進めます。



コンテナ苗（カラマツ）

・当局では、生産性向上実現プログラム¹の取組の一つとして電子日報の改善・普及・定着を図ってきました。引き続き、電子日報の「見える化」等により生産システムの改善を図り、生産性の向上に取り組みます。

◇立木公売物件情報の公表

・国有林での立木公売物件の入札結果と併せ、入札価格に影響する物件情報（樹材種、胸高直径、本数等）を公表し、応札者の増加や競争性の向上につなげるほか、民有林を含め適切な立木価格の形成に取り組みます。

◇森林土木工事等の円滑な施工

・森林土木工事は、山間奥地の狭隘な箇所が多く、現地条件に適した工法の選定等を行うとともに、建設業の担い手不足や高齢化が進む中、施工の省力化・効率化が課題となっています。そのため、工事を適正かつ円滑に施工する「新技術・新工法」等を広く企業等から募集し、プレゼンテーションの場を設けます。また、受発注者間のコミュニケーションを強化し、品質確保や技術的課題に対する工

夫等による工事の省力化・効率化に向けて取り組みます。

◇広葉樹二次林の施業上の取扱いに係る検討

・管内に約三万四千畝（名古屋市の面積程度）存在する広葉樹二次林（人の手が入らなくなった広葉樹の天然生林や針葉樹の人工造林地が広葉樹林化した森林）の施業の必要性や考え方、伐採木の利用可能性等について、有識者による検討会を実施し、広葉樹の森林づくりの具現化による森林の公益的機能の一層の発揮に取り組みます。



ミズナラを主体とする広葉樹二次林（北信森林管理署管内）

II 公益的機能の一層の発揮

◇多様な森林への誘導

・主伐時の広葉樹の保残等による針広混交林への誘導や、林齢や樹種の異なる小規模な林分がモザイク状に配置された面的複層林への誘導など、多様な森林づくりを推進します。

・土砂災害警戒区域の上流に位置する急傾斜地等においては架線集材を行うなど、林地保全に配慮した適切な方法で森林施業を推進します。



帯状に配置された面的複層林（中信森林管理署）

◇安全・安心への貢献

・「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」の取組として、森林の防災・保水機能を発揮させる森林整備、治山施設の整備等による流木・土石流・山腹崩壊防止対策を実施します。

・大規模な山地災害が発生した際は、県や市町村等との合同調査や森林土木技術者の派遣等により、早期復旧に向けた支援を行います。また、山地災害調査アプリによる被災状況の迅速な把握により、応急対策等の現場業務の効率化を図ります。

・航空レーザ計測データを、調査や工事に活用していきます。

◇二ホンジカ被害対策

・くくりワナの貸出しによる捕獲の強化や、自動通報装置を活用したワナ見回り負担の軽減等のほか、獣害対策に係る講習会・現地検討会を実施し、地域ぐるみの二ホンジカ対策を推進します。

・ブロックディフェンスを活用した捕獲手法の検証やツキノワグマの錯誤捕獲防止ワナの普及など、多面的な被害対策に取り組みます。



獣害対策に係る講習会の様子（森林技術・支援センター）

Ⅲ 林業の成長産業化への貢献

◇木材の安定供給と需要拡大

・ウッドショックや不安定な国際情勢等により国産材への需要が高まっていることから、地域の木材需給動向等を民有林関係者と共有しながら、国有林材の安定供給に取り組みます。

・人工林材であっても高齢級で高品質を売りにした当局独自のヒノキのブランド材「**高国木曾ひのき**」、**「高国東濃ひのき**」、**「段戸S AN」**や、「信州プレミアムカラマツ」を積極的に供給します。

・木材関連機関と連携した木材利用促進のための普及・啓発活動等に積極的に取り組みます。

・中大規模建築物や神社仏閣等の建築に必要な特殊な寸法ニーズを木材市場を通じて情報収集し、供給を行います。

・木質バイオマス燃料の円滑な供給等を目的として、生産請負事業地等で発生する末木枝条や端材などD材の販売に取り組みます。

◇民有林との連携

・「森林経営管理制度」の定着に向け、市町村職員が当局の研修、現地検討会等に参画するなど、地域のニーズに応じた民有林の人材育成を支援します。

・効率的かつ安定的な林業経営の育成を図るため、国有林の一定区域において、公益的機能を確保しつつ、一定期間、安定的に樹木を採取できる権利を設定する「樹木採取権制度」の適切な運用に取り組みます。

Ⅳ 「国民の森林」としての管理経営

・「日本美しの森 お薦め国有林」の情報発信や環境整備等を実施します。

・「国有林おさんぽMAP」等の情報発信を引き続き行い、国有林を活用した地域の観光振興に取り組みます。

・中部山岳など国有林が国立公園にもなっている地域において、環境省との連携強化に取り組み、優れた自然の保護と利用の両立を目指します。



「日本美しの森 お薦め国有林」 駒ヶ岳風致探勝林（南信森林管理署）

※令和5年度 中部森林管理局の取組の詳細は、当局ホームページをご覧ください。



**無人航空機の
操作説明会を実施**

【企画調整課】

三月八日からの二日間、局研修所において、新たに配備した無人航空機（ドローン）の操作説明会を実施し、出先機関の職員など三十一名と関東森林管理局の職員二名が参加しました。

ドローンの操作には、飛行に関する知識の習得や操縦技量が必要であるため、十分な経験を有する講師のもと、講習の受講や訓練飛行を実施することとなつていきます。また、機種ごとに性能が異なるため、安全な飛行と業務での活用を目的に、ドローンの納入業者より、法令や新たに配備した機種（EVO II Pro V3）の性能など、必要な知識を学ぶとともに飛行訓練を行いました。

一日目の講習では、これまで使用していたドローンとの操作方法の違いや新たな機能の説明などがあり、参加者からは、新しい活用を見据えた質問が多く出されました。



操縦技量に合わせて5班に分かれて実習

二日目は、犀川河川敷にある長野市が管理する航空用のラジコン広場に移動し、参加者全員が新機種での飛行訓練を実施しました。従来の機種での操縦技量を有する班では、新たな機能を試しながら実践的な利用方法を検討するなど、充実した内容の説明会になりました。

現在、ドローンは森林の状況や工事現場の作業箇所の確認、災害発生時の速やかな現地調査などに使用しています。今後とも、各現場においてドローンを安全に飛行させ、新たな機能も活かして、より一層活用できることを期待しています。

**パワーアップ森林整備
「森林整備推進協定エリア拡大」**

【東濃森林管理署】

三月十三日、平成二十四年三月に結ばれた「中津川市加子母地区森林整備推進協定」に関わる新たな覚書を構成員間で交わしました。

今回の覚書では、協定期間の延長だけではなく、これまでの協定エリアを拡大し、更に森林整備を進めることを目指して、構成員である東濃森林管理署長、岐阜県林政部長、中津川市長、岐阜県森林公社理事長、王子製紙株式会社資源戦略本部副本部長（平成二十四年当時）に新たな構成員として、木曾三川水源造成公社理事長、加子母森林組合代表理事組合長を迎えました。

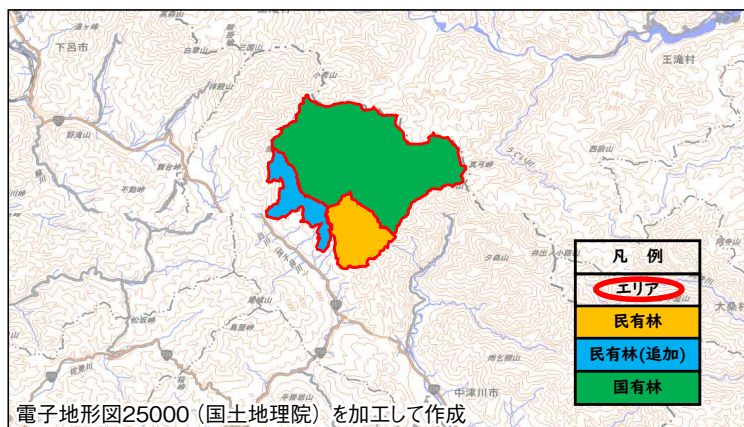
これにより、協定地内の面積は、三、七八五ヘクタールから四、二九二ヘクタールとなりました。

今回、新たに追加された森林は、これまでの協定区域の南西部に位置する約五〇七ヘクタールの民有林で、そのうち八二ヘクタールが人工林であり、そ

のうちの八〇ヘクタールを地域ブランド材である「東濃ひのき」が占めています。

また、このヒノキ林の五九ヘクタールが六〇年生以上の森林となつており、木材としての利用期を迎えていることから、今後、当地域から多くの木材が生産されることになると期待されています。

当署では、これからも民有林と一体となつて、森林施業、木材生産に取り組みます。



中津川市加子母地区森林整備推進協定の区域図

柿其森林事務所が
完成しました

【木曾森林管理署南木曾支署】

令和四年七月より建替工事を進めていました当支署の柿其森林事務所が令和五年二月に完成しました。

新しい事務所は、平屋造りとなっており、宿舍及び倉庫・車庫には、地元木曾谷で産出されたヒノキやカラマツ等の国産材を二四立方メートル使用しており、フローリング下地材は、繊維方向が直交するように積層接着した、厚さ九センチのCLT(直交集成板)パネルを使用するなど、建物の床強度と断熱性を高める構造を採用しました。

木は、大気中から吸収した二酸化炭素を炭素として貯蔵しており、木材になってもその効果は続いています。そこで、林野庁が公表している「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」に基づき、この建築物が貯蔵している炭素を計算したところ、十八トンのCO₂となりました。

より多くの建築物等において、

木材の利用を進めることで地球温暖化防止への貢献が期待されます。

柿其森林事務所に利用した木材に係る炭素貯蔵量(CO₂換算)

| 延べ床面積 | 木材利用量 | 木材の炭素貯蔵量(CO ₂ 換算) |
|-----------------------|-------------------|------------------------------|
| 123.37 m ² | 24 m ³ | 18 t-CO ₂ |

【計算式】

木材の材積(m³)×密度(t/m³)×炭素含有率×44/12
=炭素貯蔵量(CO₂換算)(t-CO₂)



柿其森林事務所の外観(左側:庁舎、右側:付属宿舍)

木島山国有林産の
信州プレミアムカラマツ
製材作業を見学

【北信森林管理署】

四月十一日、佐久市内の製材施設において、昨年八月に北信木材センターの原木木目で落札された木島山国有林産の林齢九九年から一〇〇年生の信州プレミアムカラマツの製材作業が行われ、その様子を東信森林管理署の職員等とともに見学させていただきました。

製材機械により慎重に挽かれた原木の木目を確認したところ、節もなくとても美しい木目であり、原木を購入された会社の社長さんからも国有林産の信州プレミアムカラマツの品質に太鼓判を押していただきました。

板状に製材された木材は、この後も加工が重ねられ、現在建替工事中のJR篠ノ井線村井駅(松本市)の新駅舎を飾る木目豊かな内装材として使用されるとのことでした。

また、駅舎が完成した際には、信州プレミアムカラマツの生産地



製材作業後に見られた美しい木目



機械による製材作業(のこ挽き)の様子

である木島山国有林内での作業の様子や根株の写真など、パネル展示で紹介いただけるとのことです。新駅舎のお披露目の際は、あらためて本誌でお知らせいたします。